

マルチスキャナー™ HD950c OneStep™ マルチ機能の壁裏探知器

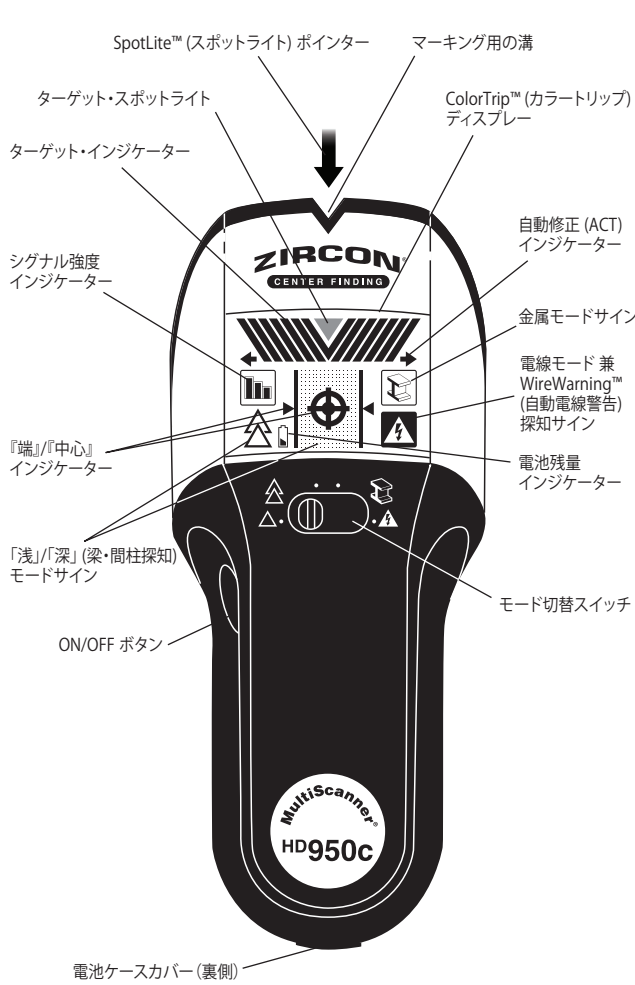
マルチスキャナー™ HD950c OneStep™ は下記の4つの探知機能を備えています。さらに、画期的なColorTrip™ (カラートリップ) ディスプレーで色別に起動中の探知モードをお知らせします。梁・間柱探知用の「浅」・「深」モード起動中は緑、金属モードでは青、電線モードでは赤と、モード変換時にバックライトの色も自動的に切り替わります。「浅」・「深」モードと金属モード起動中に通電中の電線を感知すると、バックライトが赤に変色または点滅してお知らせします。

- 「浅 (△)」モード: 木製と金属製の梁や間柱の『中心』と『端』を最大 19 mm の深さまで探知
- 「深 (△)」モード: 木製と金属製の梁や間柱の『中心』と『端』を最大 38 mm の深さまで探知
- 金属 (Ⓜ) モード: 鉄筋 (約 13 mm の直径の場合) のような鉄 (磁性) 金属なら 76 mm の深さまで、非鉄 (非磁性) 金属なら 38 mm の深さまで探知
- 電線 (⚡) モード: 通電中のシールド無し交流電線 (AC) を 50 mm の深さまで探知

1. 電池の取り付け・交換

本体裏側下方の電池ケースカバーのつまみを押して、カバーを開けて下さい。プラス (+) とマイナス (-) の端末をケース内に印刷された図に合わせて、**新しい**9ボルトの角電池を挿入して下さい。電池をしっかり押し込み、カバーを開めます。

電池残量インジケータ：電池の残りが少なくなると、電池残量インジケータが液晶画面上に現れます。この時点では本体は作動しますが、できるだけ早く新しい電池に交換して下さい。インジケータが点滅し始め、画面上にその他の表示が何も現れない場合は、電池残量が本体の作動に必要なレベルを下回ったことを意味します。直ぐに新しい電池に取り替えて下さい。



Zircon 製品は液晶 (LCD) 画面を搭載したモデルは、電池からの電流を大量に消費します。これらの製品が最適な状態で動作するように、新しいアルカリ乾電池をご使用下さい。

製品の取扱には万全を期しておりますが、万が一問題が生じた場合は、まず電池を新品のものに交換して下さい。それでも問題が解決しない時には、最寄の Zircon 代理店、または Eメール (info@zircon.com) でカスタマーサービスまでお問い合わせ下さい。

2. 操作上のヒント

- 最適な探知結果を得るため、マルチスキャナー™ HD950c を正しく持ち、ゆっくりと動かして下さい。下記のヒントはさらに正確な探知結果を得るお手伝いをします。
- 右手の親指が片側、残りの指がもう片側にくるようにして本体のハンドル部をつかみます。この時指先がハンドル部上に置かれ、探知表面や探知機能頭部などに接触してはいないように注意して下さい。
 - 本体を真っ直ぐに持ち、間柱に対して平行になるようにします。この時傾いたりしないよう注意して下さい。
 - 壁にピッタリと付け、探知表面全体をゆっくりとスライドさせて探知して下さい。この時探知表面上で本体を揺らしたり、傾けたり、あるいは強く押付けたりしないよう注意して下さい。
 - もう片方の手や身体他の部分が探知表面に触れないようにして下さい。探知結果に影響を及ぼします。
 - もし探知結果に一貫性が無い場合、湿度、壁内の空洞や石膏ボード壁内に溜まった水分、または最近塗られた塗料や壁紙がまだ完全に乾いていないことなどが理由に挙げられます。湿気はいつも目に見えるというわけではありません。条件により、製品のセンサー機能に影響していることがあります。壁が完全に乾燥するまで数日間待って下さい。
 - 電線や配管の深さによって、これらの物体も梁や間柱と同じように探知されることがあります。このような物体を含んでいる可能性がある壁や床、そして天井への釘打ち、切断、あるいは穴開けをする際には常に注意して下さい。
 - 予期されない事態を防ぐため、間柱や梁は通常約 40~60 cm の間隔で設置され、その幅は 38 mm 程であることを覚えておいて下さい。これよりも近くに隣接しているものや異なる幅のものは、間柱、梁、防火帯以外のものである可能性があります。
 - 「浅」・「深」モードまたは金属モード起動中に画面のバックライトが赤に変色または点滅した場合は、通電線を感知したことを意味します。釘打ち、切断、または穴開け作業をする時は注意をして行って下さい。電線の近くで作業する時は常に電源を切して下さい。

異なる壁面上での探知

壁紙：マルチスキャナー™ HD950c は、素材が金属箔や金属繊維だったり、塗ったばかりでまだ乾いていない状態にある壁にある壁を除外しては、通常壁紙や布で覆われている壁上でも問題なく探知します。壁紙は、完全に乾くのに塗布後数週間必要なこともあります。

塗装直後の壁：乾くのに一週間、またはそれ以上かかることもあります。

ラストしっくい堀：しっくいにはその厚み(密度)に一貫性が無いため、マルチスキャナー™ HD950c の「浅」モードでは探知し難い場合があります。このような場合は金属モードに切り替え、梁や間柱に固定させるために打ち付けられた釘や石膏ボード用のネジを探知してください。しっくい内に補強用の金属メッシュが埋め込まれている場合、本製品ではこのような素材を通しての探知はできませんのでご了承下さい。

十分に表面加工されている壁、または音響天井：デコボコの天井や壁面上を探知する時は薄めのボール紙を壁面に置き、その上から「深」モードで探知して下さい。不規則な探知結果が出た時は金属モードに切り替え、梁や間柱に沿って縦方向に打ち付けられた釘や石膏ボード用のネジを探知して下さい。

木製フロアリング、下張り、またはベニヤ板上の石膏ボード：「深」モードに切り替え、本体をゆっくりと動かして下さい。厚い壁や床を通して梁・間柱を探知した場合、シグナル強度インジケータが1本か2本しか現れないこともあります。

マルチスキャナー™ HD950c は、コンクリート、またはカーペットやパッドを通して木製の梁・間柱を探知することはできません。このような場合には、一度金属モードに切り替え、梁や間柱に固定させるため間柱に沿って縦に打ち付けられた釘や石膏ボード用のネジを探知して下さい。

注：センサーの機能する深さおよび精度は、湿度、素材の成分、壁の生地、および塗料によって影響を受け変動することがあります。室内使用向け。

注意 完全に探知器だけを頼らず、壁の凹面、壁表面に見える配管や電線の挿入箇所、および通常の間柱の設置間隔など、他の情報も考慮に入れ作業を行って下さい。

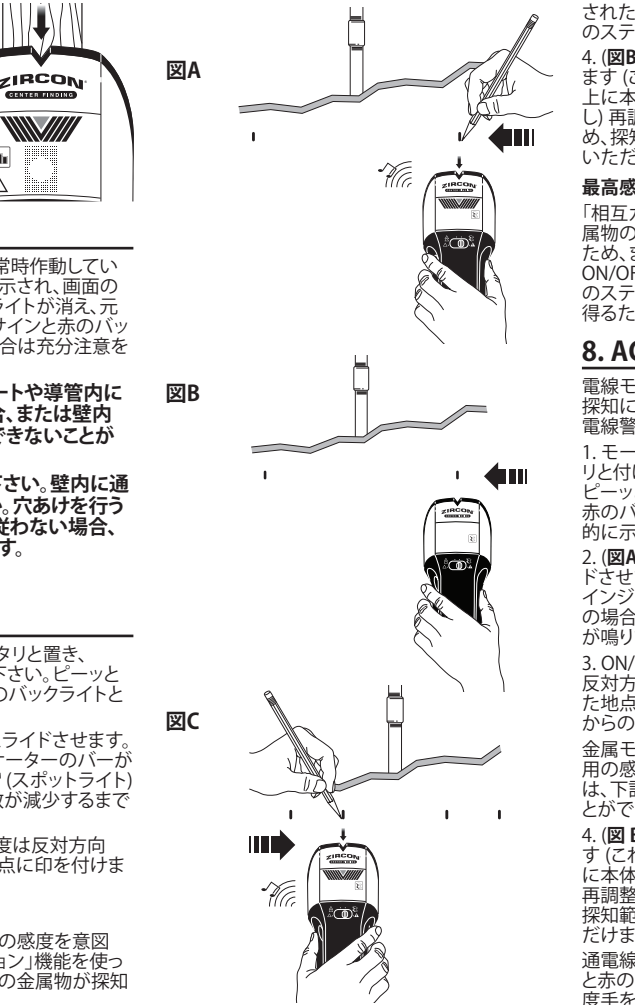
3. モードの選択

モード切替スイッチをお好みのモードに設定します。「浅 (△)」モードは木製または金属製の梁や間柱の探知用で、起動中は液晶画面のバックライトが緑になります。「深 (△)」モードは 19 mm 以上の厚さの壁裏にある梁や間柱の探知用で、起動中は「浅」モード同様緑のバックライトが点灯します。金属 (Ⓜ) モードは金属探知専用で、起動中は青のバックライトが点灯します。電線 (⚡) モードは通電中の AC (交流) 電圧探知専用で、起動中は赤のバックライトが点灯します。ON/OFF ボタンを押さない限り、本体はオフのままです。

4. 「浅」・「深」モードの調整

- まずマルチスキャナー™ HD950c 本体を壁にピッタリと置きます。その後、「浅」または「深」モードになっているのを確認してから ON/OFF ボタンを押して電源を入れます。

梁や間柱が深い位置にある(壁が厚い)場合は、梁・間柱の『中心』を探知すると、シグナル強度インジケータのバー2本と、SpotLite™ (スポットライト) ポインター、ターゲット・インジケータ中央のバーのみが表示されます。それでも梁・間柱が見つからない時は、「深 (△)」モードに切り替えて探知を行って下さい。液晶画面上の緑のバックライトと二重三角形サイン (△) が「深」モード起動中であることを視覚的に示します。



された時に活用できます。探知範囲を狭め金属物の位置を絞り込むには、下記のステップ 4 の手順に従って下さい。

4. (図B) 金属物の位置をさらに絞り込むため、ON/OFF ボタンから一度手を放します (これで電源が一度切れます)。既に付けた壁上の印を一つ選び、その印の上に本体をピッタリ置きます。ON/OFF ボタンをもう一度押して (電源を入れ直し) 再調整を行った後付近の探知を開始します。こうすることで感度を低め、探知範囲を狭めることができます。この手順は必要に応じて数回繰り返していただけます (図C)。

最高感度

「相互カリブレーション」機能と違い、最高感度は細かい「絞り込み」ではなく、金属物の大まかな位置を素早く探知・確認するのに適しています。最高感度を得るため、まず本体を空中にかざし、あらゆる金属から遠ざけます。空中にかざしたま ON/OFF ボタンを押して電源を入れ、そのままボタンを押し続けます。次に上記のステップ 2 と 3 の手順に従って探知を続けます。(金属モードでは、最高感度を得るために壁から離れた場所での調整が可能です)

8. AC (交流電圧・電線) 探知 (⚡)

電線モードは通電中のシールド無し AC (交流電圧) 電線のみを探知します。電線探知に関する重要な詳細・注意事項は、セクション 6 の「WIREWARNING™ (自動電線警告) 探知機能」を参照して下さい。

1. モード切替スイッチを電線モード (⚡) に設定します。本体を壁面にピッタリと付けて置き、ON/OFF ボタンを押して電源を入れ、ボタンを押し続けます。ピーツという短い音で調整完了を確認したら、探知を開始します。液晶画面上の赤のバックライトと電線警告サイン (⚡) が電線モード起動中であることを視覚的に示します。
2. (図A) ON/OFF ボタンを押したままの状態を本体を横方向にゆっくりとスライドさせます。電線探知表示が最大に達した地点 (画面上に最大数のターゲット・インジケータのバーが現れる時) に印を付けます。シグナルの強いターゲットの場合は SpotLite™ (スポットライト) ポインターも作動して照射し、連続的に音が鳴ります。画面上のバーの本数が減少するまで同じ方向に動かし続けます。
3. ON/OFF ボタンを押したままの状態をバーの本数が減少し始めたら、今度は反対方向 (以前印を付けた方向に向かって) に動かし、先同様表示が最大に達した地点に印を付けます。この二つの印の真ん中が探知された電線 (または電線からの電磁場) の中心となります。

金属モード同様、電線モードでも「相互カリブレーション」機能を使って電線探知用の感度を調節することができます。広範囲で多数の電線が探知された場合には、下記のステップ 4 の手順に従って探知範囲を狭め電圧の位置を絞り込むことができます。

4. (図 B) 電線の位置をさらに絞り込むため、ON/OFF ボタンから一度手を放します (これで電源が一度切れます)。既に付けた壁上の印を一つ選び、その印の上に本体をピッタリ置きます。ON/OFF ボタンをもう一度押して (電源を入れ直し) 再調整を行った後付近の探知を開始します。こうすることで感度を低め、探知範囲を狭めることができます。この手順は必要に応じて数回繰り返していただけます (図 C)。

通電線の真上で探知を開始した場合は、ターゲット・インジケータの中央バーと赤のバックライトが継続的に点滅します。この場合には ON/OFF ボタンから一度手を離し、本体を 7~8 cm 右か左に動かし、再度調整・探知を行なって下さい。

- 本製品は一度電源を入ると自動的に調整を行います。調整が完了するまで液晶画面に全てのサイン、インジケータが表示されます。調整が完了すると、SpotLite™ (スポットライト) ポインターと短い音が瞬間的に作動し、探知表面の連続測定を即開始します。ON/OFF ボタンを押した状態で、本体を壁にピッタリと付けたまま探知を開始して下さい。

注：本体を動かす前に、調整が完了する (約1-2秒間) のを必ず確認して下さい。正確な探知を行うためにとても重要です。

ACT™ (アクト - 自動修正技術):

本製品は、作動中に必要に応じて自動的に再調整を行います。これは全て表面下で行われるため、通常何の表示もありません。もし矢印が画面上に現れた時は、当初の調整が梁・間柱の真上、またはそれにとて近い位置で行われ、その後別の場所に動いたことを意味します。矢印はこの見逃された間柱の方向を表示します。

5. 梁・間柱の探知 (△・△)

常に本体を壁にピッタリと付けて探知を行って下さい。モード切替スイッチで「浅 (△)」モードに切り替えた後、本体を壁面にピッタリと置き、ON/OFF ボタンを押します。この時ボタンは放さず、押し続けたままにして下さい。ピーツという短い音で調整完了を確認したら、探知を開始します。液晶画面上の緑のバックライトと三角形サイン (△) が「浅」モード起動中であることを視覚的に示します。

本体を横方向にゆっくりとスライドさせます。『端』インジケータが画面上に現れ、梁・間柱の『端』の位置が表示されます。

そのまま続けてスライドさせます。梁・間柱の『中心』が見つかる時、シグナル強度インジケータのバー3本、ターゲット・インジケータ中央のバー、『中心』インジケータ、そして SpotLite™ (スポットライト) ポインターが全て点灯し、ピーツという短い音が鳴ります。『中心』を探知した後もスライドし続けると、梁・間柱のもう一端も確認できます。

9. 役に立つヒント (セクション 2 の「操作上のヒント」も参照して下さい)

状況	考えられる原因	解決方法
「浅」モード内で梁や間柱以外の物を探知する。実際に存在する以外のターゲットを探知する。	• 電線と金属またはプラスチック配管が壁の裏面に近接または接触している可能性がある。	• 金属と電線の両方のモードで探知し、金属や通電中の電線が存在するかを確認して下さい。 • 梁や間柱は一般的に約 30 cm、40 cm、60 cm 置きの間隔で設置されているので、それを確認して下さい。また、当初の探知箇所の上下をチェックして同じ間柱かどうかを確認して下さい。 • 間柱の場合は、探知範囲の幅が約 38 mm にはずです。これより狭かったり広かったりする場合、ドアや窓枠の近くを除いては、探知したターゲットは恐らく間柱以外の物体です。
電圧探知結果が実際の電線よりもはるかに大きな幅で表示される (電線モードのみ)。	• 電圧探知は石膏ボード壁上では、実際の電線の各側から最大 30 cm まで広がることある。	• 探知を狭めるには、電線が探知された箇所の端部で本体の電源をオンオフして、再度探知を行って下さい。
金属探知ができない。	• 金属物上で調整が行われた。 • 金属物がとても小さい、あるいは壁の奥深くに存在する。	• 金属物上で調整が行われ、感度が低くなった可能性があります。別の場所でもう一度調整を行って下さい。 • 縦横両方向に探知をして下さい。金属探知感度は、金属物が本体上部の「Zircon」ロゴのすぐ下に位置する探知センサーと平行している時に増加します。
金属探知範囲が、実際の金属物よりかなり大きく表示される。	• 金属は木よりも密度が高い。	• 感度を低めるため、マルチスキャナー™ HD950c を既に付けられた二つの印の間で再調整を行って下さい (金属・電線モードのみ)。
窓やドアの近くで間柱の測定が一定している。	• 通常ドアや窓の周りは二重・三重の間柱が使用されている。また、その上方には頑強なヘッダーが使用されている。	• どこから探知を開始するかを確認するため、外側 (外枠) を探知して下さい。
液晶画面が赤く点滅する。	• 調整・探知が通電線上で行われた。	• ON/OFF ボタンから一度手を離し、本体を 7~8 cm 右か左に動かし、再度調整・探知を行なって下さい。
電線の存在が疑われるのだが、何も探知されない。	• 電線が金属製の壁面カバー、ベニヤ合板壁、またはその他の密度の濃い素材の背部、または導管内でシールドされている可能性がある。 • 表面から 5 cm 以上深い電線は探知されないことがある。 • 電線が通電していない可能性がある。	• 金属モードを使って金属、電線、または金属製の配管が探知できるかを確認して下さい。 • ベニヤ板、石膏ボード裏側にある厚い木製の裏張り、または普通よりも厚い壁が存在する場合は、特に注意をして下さい。 • スイッチでコンセントをコントロールする場合は、探知の際に必ずそれをオンにしておいて下さい。ただし、電線の近くで作業するときはオフに下さい これらの物質が存在する可能性がある場所で、壁、天井への釘打ち、切断、または穴開け作業をする時は注意をして行って下さい。
電池残量インジケータが点滅し、本体が作動しない。	• 電池残量が低過ぎて本体が正常に作動しない。	• 新しいアルカリ乾電池 (9 ボルト角形) と交換して下さい。

ACT, ColorTrip, カラートリップ, DeepScan, ディープスキャン, MultiScanner, マルチスキャナー, OneStep, フォンステップ, SpotLite, スポットライト, WireWarning, および Zircon は Zircon Corporation の登録商標または商標です。

最新版の取扱説明書、または製品に関する詳細は、当社ホームページ (www.zirconcom) をご覧ください。

限定一年間保証

Zircon Corporation (以下「Zircon」とする) は、本製品をお買い上げになった日から一年間、その部品および仕上げのどちらにも欠陥が無いことを保証します。製品の取扱には万全を期しておりますが、万が一製品購入後一年以内に欠陥が確認された製品は、購入日を証明する書類 (白付付きのレシート、または領収書) と共に、製品をお買い上げになった代理店・店舗までご持参下さい。代理店の判断により代替させていただきます。この保証は、電子回路および製品本来のケースに限定されるもので、誤用、不適当な使用、不注意などによる損傷は特に除外されます。この保証は、明示または黙示に関わらず、その他全ての保証の代わりとなるもので、その性質に関わらずその他のいかなる表現や主張も、Zircon を拘束したり義務づけることはいません。本製品に適用できる黙示の保証がある場合は全て、購入から一年間以内に限定されるものとします。

本製品の所有、使用、または誤作動によって生じる特別損害賠償、付随的賠償賠償、あるいは間接的損害賠償については、いかなる場合にも Zircon が責任を負うことはありません。

カスタマーサービス

製品に関する詳しい情報やお問い合わせは、お手数ですが最寄の代理店、または下記の方法で直接 Zircon Corporation 本社までご連絡下さい。

ホームページ: www.zircon.com
Eメール: info@zircon.com
TEL: +1 (408) 963-4550
FAX: +1 (408) 963-4597

© 2017 Zircon Corporation • P/N 68750 • Rev A 02/17